

令和5年度 第2回石川県職業能力開発審議会

日時：令和5年11月15日（水）10：00～

場所：石川県庁行政庁舎11階1109会議室

審議事項

- ・産業技術専門校の今後の在り方について（答申案）

【土岐課長】

（産業技術専門校の今後の在り方について答申案の説明）

- ・答申（案）の「1 産業技術専門校の現状」について、審議会の意見なども踏まえながら、現状を把握したもの。
- ・石川県では、民間教育訓練機関での人材育成が難しいものづくり分野等の職業訓練について、国が運営する職業能力開発校と訓練対象者・訓練内容を役割分担しながら、金沢・小松・七尾・能登の4校の産業技術専門校において、地域のニーズを踏まえて設置した訓練科で、それぞれ特色ある訓練カリキュラムを提供し、これまで2万人を超える技能人材を育成してきた。
- ・具体的には、対象別に、ものづくり分野等における基礎的な知識・技能を習得するための「若年者訓練」、再就職に向けて新たな知識・技能を習得するための「離職者訓練」、県内企業の労働者の技能向上のための「在職者訓練」を実施してきた。
- ・各校の若年者訓練及び離職者訓練の入校状況は、概ね一定水準を維持しているが、小松校の生産設備製造科、七尾校の生産設備保全科、能登校の建築科など、低迷している訓練科も見られる。
- ・就職状況については、離職者を対象とする七尾校の土木建築科や能登校の造園科・建築科など、訓練生の平均年齢が高い訓練科では、他の訓練科に比べて若干、就職率が低くなっているものの、全体として就職率は高く、一定水準を維持している。説明資料5ページ目には、就職状況をまとめている。能登校は60%前後の就職率であったり、その他でも80%、90%の就職率がある訓練科や金沢校の総合建築科は100%というような数値となっている。
- ・産技校修了採用企業へのアンケート結果について載せている。産技校修了生採用企業

からは、産技校修了生について、「業務に必要な資格や知識があり、即戦力となっている」「優秀で、真面目」といった声が聞かれ、産技校修了生の大半が、訓練が役に立っているとしている一方で、修了生からは、施設・設備の老朽化や不備等を指摘する声も多い。また、県内企業の過半数が、修了生の採用に意欲的な一方で、産技校の認知度の低さが課題となっている。説明資料6ページ目以降でアンケート結果をまとめている。グラフ等々で示しているが、採用した修了生の技術水準について「期待通り」が67%、「期待以上」が9%で、7割5分以上が期待以上という結果になっている。修了生のアンケート結果は、職業訓練については、「とても役立った」と「役立った」との回答を合わせると87%で、建物・設備の状況については、「古い」や「やや古い」と古さに言及されたのが87%という状況。県内企業全般に対するアンケートでは、修了生の採用について、「積極的に採用したい」「有為な人材であれば採用したい」という声はあるが、約4割の企業が産技校をよくご存じないという結果が見られた。

- ・なお、近年、増加傾向にある外国人労働者への対応としては、外国人技能実習生等を対象とする在職者セミナーを開催しているほか、外国人従業員を抱える企業への実習場の貸出しなどを行い、外国人労働者を雇用する企業のニーズに対応している。
- ・こうした中、ハード面では、平成16年にリニューアルした小松校を除く3校は、建築後60年程度が経過し、老朽化が進行しており、施設の大規模改修や建て替えの検討が必要な時期に来ている。
- ・また、ソフト面の状況では、これまで訓練科の再編や訓練カリキュラムの見直しを適時行い、時代の変化に対応はしてきたが、現下の社会全体のデジタル化やグリーン化の進行など社会経済情勢の変化や、それに伴う地域のニーズを的確に捉え、あらためて訓練科等を見直しを行うべき局面に差しかかっている。
- ・「2産業技術専門校の今後の在り方」として、審議会としての方向性をまとめている。
- ・2(1)の産業技術専門校の配置については、先述のとおり、石川県では、4校それぞれの地域ニーズを踏まえて設置した訓練科で特色ある訓練カリキュラムを提供しており、即戦力の技能人材を育成する職業訓練機関として、地元企業からのニーズや期待も高い。
- ・こうした中で、近年、職業訓練施設の再編を実施した県を含め、大半の都道府県においては、離職者訓練のセーフティネットとしての機能に鑑み、都道府県内各地から、概ね1時間以内で、離職者訓練を実施している国又は都道府県の職業訓練施設へのアクセスが可能になっている。説明資料14ページ目には、北陸3県の訓練校の配置状況について

載せており、現状でおおむね1時間程度でのアクセスが可能になっている状況。15、16ページ目には、近年訓練校の再編を行った他県の事例をまとめている。宮城県は距離的には離れているが、交通網が発達しており仙台に1時間以内に行けるようなインフラが整備されている。その他も、1時間以内でアクセスできるような形になっている。

- ・現在、石川県においても、概ね1時間以内で、離職者訓練を実施している国のポリテクセンター又は小松・七尾・能登の産技校3校へのアクセスが可能となっているところ、南北に細長い石川県の地理的特性や他の都道府県の状況も踏まえると、今後とも、県内各地から、離職者訓練を実施している国又は県の職業訓練施設にアクセスできるようにするとともに、地域のニーズを踏まえた訓練を実施できるよう、産技校は、現在と同様に、金沢・小松・七尾・能登の4箇所配置することが望ましい。
- ・2(2)では、老朽化が進行している小松を除く3校についてのハード面について、金沢・七尾・能登の3校において、訓練を継続していくためには、施設の大規模改修や建て替えが必要となるが、多額の費用を要することが見込まれることから、県財政への影響のほか、全国的に都道府県立職業訓練施設の老朽化が進行している中において、産技校の整備に活用可能な国庫補助（職業能力開発校施設整備費等補助金）の予算措置の状況も踏まえながら、計画的に整備を進めていく必要がある。
- ・金沢校は、3校の中では特に老朽化が著しく、基幹校として、利用者も多いことから、まずは金沢校から優先して整備することが望ましい。
- ・2(3)では、訓練科・カリキュラムの見直し（ソフト面）について、産技校の訓練科やカリキュラムについては、これまでも地域ニーズや、社会経済情勢の変化に応じて、幾度となく見直しを行ってきているところ、昨今の社会全体のデジタル化やグリーン化の進行に見られるような社会情勢変化や、それに伴う地域ニーズに的確に対応していけるよう、今後とも、不断の見直しを図る必要がある。
- ・例えば、小松校の生産設備製造科、七尾校の生産設備保全科、能登校の建築科のように、入校者が少ない訓練科については、地域や企業のニーズ等を見極めたうえで、国の職業能力開発校や民間教育訓練機関との重複等の状況も踏まえつつ、廃止や他の訓練科との統合を検討することが望ましい。
- ・また、訓練カリキュラムについては、時代の要請や、企業や訓練生のニーズを踏まえ、例えば、生産現場の自動化・省人化に対応した高度な工作機械の導入など、実習設備の充実を図るとともに、昨今の気候変動の状況を踏まえ、エアコンを設置するなど、訓練

環境を整えることが望ましい。

- ・さらに、今後の外国人労働者の増加への対応として、外国人技能実習生等を対象とする在職者セミナーのほか、外国人従業員の実習のために産業技術専門校の施設・設備の利用が可能であることについて、外国人従業員を抱える企業や管理団体への周知を徹底する。

(質疑応答)

【高委員】

- ・金沢校を見学したが、建物の古さに驚いた。地震が起きた場合には大丈夫だろうかと感じたのが第一印象。
- ・産業技術専門校の直近5年の入校状況を見ると、全て定員割れしている。もう少し周知する方法はないのか。若年層で大学を卒業して新卒で就職し3年以内で辞める方がたくさんいらっしゃるが、産技校で学び直していただいて、さらに力をつけていただいて、石川県内の製造業に入っていただくような、そういう道をつくる方法はないのかと思う。
- ・本当に時代の流れが速いことから、産技校の訓練が企業が求めるスキルに合っているのかと思う。

【土岐課長】

- ・周知については、各校ごとにパンフレットを作成しており、必要などころにはお送りして周知している。
- ・入校人数については、今、人手不足の状況があり、訓練ではなく就職に人が流れていることが影響している。リーマンショックのような時には入校人数は多くなる傾向。雇用情勢がよいときには、入校率は下がるが、就職率はよい。
- ・訓練内容については、日々、石川県の企業に求められている資格など、ニーズをお聞きして訓練科に反映している。企業が求める資格に関しては基本的にカバーするようにしている。

【古口委員】

- ・説明資料3ページ目の離職者訓練については、ポリテクセンターでも行っている。委託訓練についても、人気のあるコースや定員割れしているコースがどうしても出てきてし

もう状況。産技校全体として見ると、定員割れしているが就職率が高い。一方で、民間の委託訓練になると、訓練期間が短いこともあり、この施設内訓練に比べて大体10ポイントぐらい就職率が落ちる形になる。

- ・ハローワークの窓口で企業さんのお話聞くと、アンケート結果のとおり、訓練生の期待度というのは高く、ハローワークでは、訓練校を受講した訓練生の方のスキルなどの情報から、企業とのマッチングさせていただいている。ハローワークとしても県、機構と連携してしっかりPRさせていただきたい。

【村上委員】

- ・答申（案）につきましては賛成の立場でお話をさせていただきたい。
- ・改めて、県がものづくりなどの職業訓練を行って技能人材を育成して、県内企業への就職の道筋をつくっていることにすごいシステムだなと思う。加えて、低価格で貴重な資格が取れるということに本当に大きな魅力だと感じた。
- ・入校状況については少ないと思ったので、しっかりPRすべきでないかと思う。
- ・金沢校を見学した際は、大変暑かった。パソコンの教室には冷房があったが、実習の現場では扇風機が動いていたが、全く間に合わないという状況で劣悪な環境だったなということがすごく感じられた。それでも入校生の皆さん一生懸命頑張っておられまして、いろんな実演も見させていただいた。また、機材がかなり古いということがわかった。機材のレベルアップが必要だろうなということを感じている。
- ・それと、やはり施設の老朽化について、築後約60年程度ということで、歩いていても雨漏りとか、剥がれているところとか、足元が危ないところとかいっぱいあった。地震への耐震についても厳しいだろうな思い、即対応しなければいけないのではないかと感じたが、整備には多額の費用がかかるため、国の補助金を活用しながら少しずつ改善していく、そして入校生の皆さんも安心・安全の対応ということを重要視していくことは大事だと思っている。
- ・指導員について、ベテランの方で丁寧な指導をされていて、本当に良かったが、高齢化が進んでいるかなと見てとれ、危惧している。例えば仮に入校生が増えた場合には、指導員の体制の強化は必要ではないかなと思ひ、気になった。
- ・石川県の中でこの4校を存続してほしいと思うので現状維持で継続していただきたい。現状のカリキュラムの内容の見直しや時代に合った実習設備の充実、そして外国人向け

の訓練の検討が必要。ものづくり産業の活性化や人手不足の解消の一翼を担いながら、課題解決に向けて動いていくことで、本当に魅力のある訓練校になるのではと思う。

【林委員】

- ・説明資料15、16ページの訓練校の配置状況について、訓練校を再編した県と統廃合しなかった件の背景事情を教えてください。

【土岐課長】

- ・統合した県については、廃止により一方的になくなるのではなく、例えば宮城県では、その距離を確保する中で仙台に廃止校の機能を入れた大きな施設を造るといった考え方をとっている。訓練校を一元化することで指導員についても効率的に配置できる。廃止により、訓練校の機能が全部なくなったというようなケースはほとんどないかと思う。
- ・一方で、統廃合しなかった県については、建物の築年数の事情などにより、距離的には統合できる訓練校もあるが、一方の機能をそのまま継続させたいといった状況などにより、老朽化した建物建て替えを行っている。

【廣田委員】

- ・施設の老朽化について、建替え時期のサイクルはどのようになっているのか。

【土岐課長】

- ・一般的に石川県のように60年経過しているケースはほとんどなく、通常40年程度くらいのサイクルで改修をしていると伺っている。

【廣田委員】

- ・建替えや大規模改修に要する財源は、県だけの負担なのか、国からの補助もあるのか。

【土岐課長】

- ・国の補助金を活用することで国に半分程度の費用を負担してもらえる。

【山下委員】

- ・答申（案）には賛成の立場。
- ・施設の老朽化への対応だけでなく、自動化などに対応できる訓練設備の更新も必要。また、加工だけでなく、ロボットなど複合的な配置の中で物を見られる人材を育成できるカリキュラムも発展的にはあってもよいと思う。
- ・設備は高額で納期も長くかかるものもあるので、VRゴーグルやシミュレーターをうまく活用した訓練も取り入れることもよいと思う。

【山本委員】

- ・訓練校4校を残す方針で現在のところは進めばいいと思う。最優先に金沢校ということに対しても異論はございません。
- ・前回の審議会でも言ったが、人口減が能登で生じているので、そここのところの兼ね合いをしっかりと取っていただきたい。また、産技校に関しては、やはり離職者のセーフティネットであり、企業の人材供給のためのセーフティネットでもあるという側面を忘れていただかないでいただきたい。加えて、七尾校の生産設備保全科はポリテクカレッジ石川の生産技術科に比べ訓練期間が1年短いので、さまざまな理由で訓練に2年間かけられない方もいらっしゃることを忘れていただかないでいただきたい。

【普赤委員】

- ・産業界の立場としては、4校体制で維持していただくことは大歓迎。時代やニーズに即したカリキュラムを構えていただいて新しくなるということも大いに期待したい。
- ・4校体制維持の議論の中でおおむね1時間圏内という議論があるが、あまり時間で言う「1時間圏内なら県内2箇所あれば十分じゃないのか」といった議論にもなりかねない。
- ・国や民間との役割分担についてはしっかり考えておかないといけない。時代のニーズや企業等が求める人材をどうやって育てていくかという視点が必要。コスパ議論になるとこのような施設の存続というのは難しいと思う。金沢校については、横にポリテクセンターもあるので、明確に役割分担をする必要がある。

【橋本委員】

- ・県民が納得するような進め方をしていかなないとなかなか理解が得られないのではないかと

思う。

- ・金沢校は築後約60年経過しているが、それでも建て替える必要がなかったということは、今、普赤委員がおっしゃったようなことが足りていないので、このまま放置されてきているのではないかなと思う。
- ・ぜひ4校を残していただいて、社会を支える人材をきちんと育て上げていただきたいと思う。

【日根野委員】

- ・職業訓練校が誰に向けての何のための施設なのか、セーフティネットとしての施設として考えるのか、または先端的な技術を教えて高度人材をつくるための施設として考えるのか、その方向性がはっきりしないと、限られたお金でどっちへ行くのかということが迷走すると思う。
- ・セーフティネットとして考えるのであれば、職業訓練校に来た人にだけを教えるということではなくて、もっと広く離職した人たちの助けになるアナウンスなど、ソフトの面での方法は考えられないものか。

【土岐課長】

- ・産技校は離職された方等が低費用で職業訓練を受けたいということに応える施設であり、セーフティネットのためだけの施設ではない。例えば、リーマンショックのような時にはセーフティネット的な側面もあると思う。
- ・コストパフォーマンスについては、行政であってもコスト意識は要りますので、先ほど普赤さん、橋本さんおっしゃっていただいたような話は当然意識していくべき話として、それも踏まえて考えていきたいと思う。

【古口委員】

- ・ハローワークはお仕事を紹介する場ということで、まさしくセーフティネットという意味合いが強い場所になる。就職をしていただくために、何度も就職活動をしてでも就職ができないといった方に対して、訓練を受けてからもう一度チャレンジしてみませんか、それが訓練の一番の大本だと思っている。よって、このハローワークを通じた訓練に対する受講あっせんというものはセーフティネットという意味がどうしても強くなってし

まう。それが離職者に対してハローワークのアプローチが強くなる部分だと思っている。一方、若年者についても、リーフレット等でアプローチをしており、引き続き支援していきたいと思う。

【山田委員】

- ・老朽化の面は早急に改善していただきたいと思う。また、寮のエアコン設置についても、体調に関係してくることなので改善してほしい。

【林委員】

- ・産技校を見学させていただいて、建物が古いと思うとともに、手厚い訓練内容だとも思った。
- ・今後の在り方については、予算を使うということに対して、その予算が必要なんだということを十分に言えるだけの条件がそろっているかという面から、答申の中にもそういう視点は盛り込んだほうが良いと思った。
- ・他県の状況について伺ったが、石川県でも、建物を修繕ないし建て替える場合に同じ規模でいいのかどうかというようなことを今後検討する必要がある。訓練科や定員の見直しも必要だとすると、規模的な見直しも必要になるかもしれないという視点を答申に盛り込んでよいと思う。
- ・訓練の内容については、見学させていただいて、大変基礎的な内容をしているということもあって手厚い内容で、だからこそ就職率がよいのだなと見て思った。答申にそのような内容を盛り込めばいいかと思う。
- ・金沢校の利用人数については、何をもって多いと言うのというずれが生じ得るかもしれないので、利用者の状況というのは状況によって左右されるため、「利用者も多いことから」というふうに書いていいかどうかちょっと悩むなと思った。

【斎藤校長】

- ・金沢校の若年者訓練は昨年は53名。在職者セミナーという、企業で働いている方の2日間から1週間ぐらいのセミナーを行っており、そちらの利用者は258名。また、技能検定会場を貸し出しており、例えば技能実習生、主にベトナムの方が多いが、その方々の利用を含め技能検定会場を貸し出しており、388名の方に昨年利用いただいている。そのほ

かに、中学校の方、高校の方にもものづくりについて理解していただく体験会を実施しており、年間40名から50名の方に参加いただいている。また、ハローワーク、労働局と協力して委託訓練を実施しており、昨年の実績が743名。

【古口委員】

- ・ 4校での運営には賛成。
- ・ 金沢校からの優先整備について、整備費の財政的制約から3校全部建て替えるとなると10年を超えるスパンになるのではないかと思う。今後いろんな状況により、統廃合を含めて状況が変わるとまたいろいろ変わってくると思い、答申（案）の(2)のとおり計画的に整備を進めていく必要があるという中で、さらにもう一つ踏み込んで、状況に応じて再度、こういった話合いや検討をする余地もあるといったことを入れてはどうか。

【村上委員】

- ・ 答申（案）が1産業技術専門校の現状ということできなり入っているが、その前に産業技術専門校の存在意義を説明する前書きが必要だと思う。

【光永部長】

- ・ 産業技術専門校の現状の中で、産技校は地域ごとにしっかりと訓練を行っている、要は産業技術専門校がいかに重要かというのを語らせていただいている部分だと思っている。
- ・ 産業技術専門校にはいろんな役割があると思うが、セーフティネットとしての機能が軸にはなっていると思っている。ですから、その配置についても、県内バランスよく配置するということが望ましいと思っている。一方で、地域の地元企業さんのニーズを踏まえているからこそ、訓練校によっていろんな訓練科がありカリキュラムがあるので、決して1時間圏内というところだけに拘泥しているわけではなく、決して距離だけで考えているわけではない。
- ・ 特に金沢校を優先して整備の部分については、金沢校が3校の中で、非常に利用者も多く基幹校としての役割があるということで、2校と比べるというところで記載している。
- ・ 入校者数の確保については、普通の学校、高校さんなどと比べるということはなかなかし難いと思う。要は、定員割れしてる状況が続いているから、やらなくていいのかとい

うことではないと思っており、景気の動向で入校者数というのも上下するようなところもあるので、やはりセーフティネットとしての役割に鑑みると、入校者数だけで判断する、最近低迷しているからやめてしまうのかということ、一足飛びにそういう議論にはならないと思う。ただ、定員を確保して企業さんに人材を供給するというのが大きな役割になっているので、しっかりと人材育成するという観点からは、入校率が低迷しているところは周知が行き届いてない部分も大きく関わっているであろうかと思うので、しっかり力を入れていくということは答申の中にも反映できたらいいなと思っている。

- ・最後に、ハード整備の部分、やはり非常に大きなお金がかかる部分なので、県民の皆様への納得感を得てしっかりとご理解いただいた上で進めていくというのが大前提だと思っている。3校もあるということで、ほかの都道府県に比べると大分使ってる年数が長いですが、それが、要は使えてたということではなくて、適宜補修もしながらだましまし使ってきたという部分がある。一概に全部建て替えるということではなく、答申の中でも建て替えなのか大規模改修なのかということも書かせていただいているので、きちんと費用対効果も見ながら、建て替えるのか、あるいは改修で何とか耐震補強をしてとどめるのかとかといった部分はしっかりと検討していきたいと思っている。

【廣田委員】

- ・答申（案）について、大規模に改修して何億も何十億もかけて整備ということになるので、現状から始まる答申ではなく、やはり存在意義や役割などを冒頭にきちんと訴えることは極めて重要だと思う。

【橋本委員】

- ・答申（案）について、現状の記載だけではなく、産技校で学ぶ人たちが、非常に社会のインフラ整備に役立っているという重要性を訴えるものがあるとよいと思う。

【光永部長】

- ・前文に存在意義などを記載を入れることについて検討させていただきたいと思う。

【木綿会長】

- ・審議事項の県立産業技術専門校の今後の在り方に関する答申（案）について、本日の皆

様のご意見を踏まえた修正については会長に一任ということによろしいか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

【木綿会長】

- ・それでは、本日の審議事項は終了したので、これで審議を修了する。